

- rhythm of the duckweed *Lemna gibba* G3 caused by an Azide Pulse. *Plant Physiol.* 73: 605-608.
- Kunii, H. Diurnal vertical fluctuations in some water variables under the covers of two different aquatic plants, *Elodea nuttallii* and *Trapa* sp. *Mem. Fac. Sci., Shimane Univ.*, 17: 61-69.
- Muramoto, S. & Y. Oki. Removal of some heavy metals from polluted water by waterhyacinth (*Eichhornia crassipes*). *Bull. Environ. Contam. Toxicol.* 30: 170-177.
- Oota, Y. Physiological structure of the critical photoperiod of *Lemna paucicostata* 6746. *Plant Cell Physiol.* 24: 1503-1510.
- Satake, K., M. Soma, H. Segawa & T. Uehiro. Accumulation of mercury in the liverwort *Jungermannia vulcanicola* Steph. in an acid stream Kashiranashigawa in Japan. *Arch. Hydrobiol.* 99: 80-92.
- Takeuchi, Y. & U. Kishimoto. Changes of adenine nucleotide levels in *Chara* internodes during metabolic inhibition. *Plant Cell Physiol.* 24: 1401-1409.
- <1984-(1)>
- 片山敏雄. 食虫観察記〔5.イトタヌキモの越冬法〕  
食虫植物研究会誌. 35: 9-11.
- 小林登史夫. 日本国内のP(リン)のマスバランスとホテイアオイの役割. ホテイアオイ研 Newsletter No.3: 7-8.
- 小堀 弘. ムジナモに及ぼす水位の影響について. 食虫植物研究会誌 35: 11-12.
- 小宮定志. 新・食虫植物の進化論. 食虫植物研究会誌 35: 1-7.
- 芝山秀次郎. 東南アジアにおけるホテイアオイ等の水生雑草問題. 一タイの状況を中心として— ホテイアオイ研 Newsletter No.3: 2-3.
- 島野好次. 多々良沼干拓地内の水生植物. 野草 No.397: 42.
- 清水正元・梶田聖孝. ホテイアオイの利用と栽培施設の開発(予報). ホテイアオイ研 Newsletter No.3: 4-7.
- 菅 洋. 浮稲は洪水に遭うとなぜ伸びるのか? 農業および園芸. 59: 23-28.
- 浜島繁隆. 愛知県産スプタ属. レポート日本の植物 No.20: 187.
- 林 浩二. 一年生浮葉植物の生活. 遺伝 38(4): 6-11.
- 松沢篤郎. 群馬県館林市、多々良沼及び周辺の植物. レポート日本の植物 No.20: 190-191.
- 村田 源. 深泥池の植生と植物相. 遺伝 38(1): 91-97.
- 矢部 晨. 走査電子顕微鏡でみた水生植物の通気道. 遺伝 38(4): 口絵.
- 山口 聡. オニバス—福岡県下の新産地. レポート日本の植物 No.20: 185.
- Sakano, K., T. Shimmen, S. Hatanaka & M. Tazawa. Distribution of Isoasparagine among different Characean species. *Bot. Mag. Tokyo* 97: 81-85.
- Sastroutomo, S. S. Classification and ordination of aquatic vegetation in Lake Aino-numa, Miyagi. *Ecol. Rev.* 20: 205-222.
- 補遺<1976—1982>
- 坂口清一, 1982. 香川県のヒシ属の調査報告 第1報. 香川生物 No.10: 13-17.
- 高屋武彦・本田太陽・伊藤昌光・阿部 林, 1981. 飼料作物としての「マコモ」の水田栽培. 農業技術 36: 398-402.
- 渡辺 巖. アカウキクサーラン藻の共生による生物的窒素固定とその利用. 日土肥誌 52: 455-464 (1981).
- 水草関係文献目録(8)
- <1969 つづき>
- 金井典美. 古典のなかの植物(2)国生み神話とアシ. 植物と自然 3(7): 6-7.
- 久保田秀夫. ミズバショウとザゼンソウおそびその仲間. 新花卉 62: 52-55.
- 阪本祐二. はす. 新花卉 62: 5-11.
- . ハスの連根形成について=豊田清修氏の説に反論する= 植物と自然 3(2): 14-17.
- 桜井 元. 野にある水草. 新花卉 62: 26-29.
- 篠原尚文. 光合成測定実験の工夫と発展. 科学の実験

- 20(3) : 1161 - 1166.
- 「植物と自然」編集部. 尾をひく古代ハス論争—その問題点をさぐる— 植物と自然 3(9) : 24 - 25.
- 鈴木吉五郎. 日本における水生植物の園芸的分類. 新花卉 62 : 12 - 16, 56 - 60.
- 立花吉茂. シペラス類とミズカンナ. 新花卉 62 : 30 - 33.
- 豊田清修. 古いハスの実の発芽と生長. 採と飼 31 : 230 - 233.
- . 古いハスの実の年代と開花—検見川ハスなどについて— 植物と自然 3(2) : 10 - 13.
- 中山 包. ホテイアオイ—増殖力研究の顕著な例として— 遺伝 23(9) : 30 - 33.
- 長谷川順一. 浮島湿原の植生. 採と飼 31 : 380 - 388.
- . クロモの花. 遺伝 23(7) : 口絵.
- 浜島繁隆. 水生植物の移り変わり. 遺伝 23(6) : 67 - 68.
- 林 昭二. 天北地方の二・三の植物—キモマ沼のコウホネ・ベニヤ原生花園— 植物と自然 3(9) : 21 - 23.
- 牧野晩成. 尾瀬の植物の生態観察. 遺伝 23(7) : 76 - 79.
- 榎井昭夫. 低地性高層湿原の植物生態—深泥池浮島の生態. 植物と自然 3(4・5) : 25 - 27.
- 三木 茂. 水草の進化. 新花卉 62 : 48 - 51.
- 山岡文彦. <思い出の植物>水草. 植物と自然 3(8) : 24.
- <1970>
- 大滝末男. ウキクサの見分け方. 生物教育 11(2) : 9 - 10.
- 岡田勇作. 耕地雑草群落形成過程に関する研究—水田雑草群落の生態について— 科学の実験 21(9) : 793 - 799.
- 春日道和. 高層湿原の研究. 植物と自然 4(8) : 15 - 19.
- 金井典美. 古典のなかの植物(2)雄略天皇と日下江の蓮. 植物と自然 4(10) : 12 - 14.
- 川松重信. サンショウモの中水葉における電子顕微鏡的観察. 愛知教育大研究報告<自然科学> 19 : 31 - 41.
- 阪本祐二. 大賀ハスを守り続けて. 科学朝日 30(10) : 132 - 134.
- 豊田清修. 検見川出土のハス雑考. 科学朝日 30(11) : 138.
- . ハスの実の埋没と発芽. 採と飼 32 : 378 - 379.
- 新潟県立長岡農業高校生物部ミズバショウ班. 実生苗による人工増殖を目的としたミズバショウの研究. 科学の実験 (日本学生科学選集 5) 21(8) : 165 - 170.
- 長谷川順一. 浮島湿原の植物. 植物と自然 4(3) : 22 - 23.
- 浜島繁隆. 溜め池の水生植物の生態学的研究. 北陸の植物 18 : 116 - 120.
- 三好保徳. 木の実・草の実(2)ハス・イチョウ. 植物と自然 4(2) : 4.
- 山本俊夫・島田淑子. 海藻および水草の元素含有量の比較. 藻類 18 : 28 - 32.
- <1971>
- 荒金正憲. 別府市郊外の猪の瀬戸湿原の植物. 植物と自然 5(2) : 9 - 13.
- 生嶋 功. 琵琶湖の水生植物—琵琶湖の自然を守るために—琵琶湖国定公園学術調査報告書 : 275 - 284.
- 今堀宏三・宮田 宏. 出羽島のシラタマモ—形態・生殖・生態・保護— 植物と自然 5(10) : 7 - 10.
- 岩田好宏・生嶋 功. 山中湖入江の水草群落の概観とその環境. 『富士山』富士山総合学術調査報告書 : 578 - 585.
- 大滝末男. 水生植物を求めて. 植物と自然 5(7) : 16 - 18.
- 態木義房. オニバスの発芽について. 日本農業教育学会誌 4(1) : 30 - 31.
- 沢村保昌・鈴木豊子. 津市に自活するミズバショウの生態. ヒコピア 6 : 158 - 166.
- 篠原尚文. 光合成の取扱い(1). 科学の実験 22(9) : 744 - 750.
- . 光合成領域の取扱い(2)定性から定量的扱いへ. 科学の実験 22(10) : 828 - 832.
- 清水芳孝. 花成実験材料としてのウキクサ. 採と飼 33 : 210 - 211.
- 田川 隆. 女満別湿生植物群落—その現状と保存対策— 植物と自然 5(8) : 28 - 31.

- 豊田清修. ハスの果実の形態と加圧, 経年による変化. 植研 46: 102—108.
- 習志野市立習志野高等学校生物部. 富士五湖の水草. 科学の実験 (日本学生科学選集 6) 22(8): 164—170.
- 延原肇・岩田好宏・生嶋 功. 富士五湖の水草の分布. 『富士山』富士山総合学術調査報告書: 559—577
- 浜島繁隆. 木曾川デルタ地帯の水生植物の分布と生態. 愛知県私学協会研究集録 第7集: 1—7.
- . 愛知県でコウキクサを採集. 北陸の植物19: 28.
- 兵庫県立相生産業高校生物研究グループ. 塩生植物の分布と耐塩性について. 科学の実験 (日本学生科学選集 6) 22(8): 171—175.
- 榎山泰一. 霞ヶ浦・北浦のPotamogeton. 霞ヶ浦・北浦水産生物調査報告書 第2編 水生植物調査: 13—21.
- 安原健允. マリモの球形集団再生に関する一実験. 採と飼 33: 113—115.
- 山内 文. 霞ヶ浦・北浦の水草の解剖学的所見. 霞ヶ浦・北浦水産生物調査報告書 第2編 水生植物調査: 1—12, Plate I—VII.
- 脇田晴美. 愛知県の水生植物. 『愛知の植物』(愛知県高等学校生物教育研究会): 157—166.
- <1972>
- 石川茂雄. 植生上より見た屏風山. 弘前大教育学部紀要 27(B): 57—77 (※湿原, 湖沼の植生に詳しい).
- 今井徹郎. スイレンの花は艶然と水面に. 植物と自然 6(2): 2—3.
- 今西 茂・長谷義隆. 南九州加久藤盆地溝園産“ひし”化石について. 熊本大学教養部紀要 自然科学編 No.7: 21—26.
- . 宮原哲夫. 人吉盆地下部人吉層産“ひし”化石. 同上 No.7: 27—31.
- 今村駿一郎. カワゴケソウ科植物の栽培の試み. 採と飼 34: 108—110.
- 太田万里. 楽しい山草の鉢栽培(7)オモダカ. 植物と自然 6(8): 34.
- 尾崎富衛. 新潟市内の湖沼の現況(植物)調査. 新潟市内の自然状況調査報告書(新潟市教育委員会): 1—12.
- 長田 潔. オニバスの葉の成長と結実について. 千葉生物誌 21: 63—65.
- 笠原一浩. 食虫植物の自然分布—古赤道及び倍数性との関係—植物と自然 6(10): 13—18.
- 国分 寛・納田美也. 香川県のアケシソウ. 香川生物 5: 81—84.
- 小宮定志. 日本に輸入されたタヌキモ科植物. 植研47: 83—95.
- 近藤勝彦. *Utricularia subulata* L. の染色体数. 植研 47: 31—32.
- 坂梨一郎. 水生植物の女王 熱帯性スイレン. ガーデンライフ 11(8): 19—21.
- 阪本祐二. ハスにおける花芽発達の節位. 採と飼 34: 274—280.
- 西尾市立西尾中学校生物クラブ. ホテイアオイの研究. 科学の実験 (日本学生科学選集 7) 23(12): 137—141.
- 浜島繁隆. コカナダモ東海各地に繁殖. 北陸の植物20: 16.
- 松平康邦. 熱帯性スイレン 家庭での作り方. ガーデンライフ 11(8): 22—23.
- 望月陸夫. オゼコウホネ秋田県に産す. 植研 47: 76.
- 百瀬忠征. オオカナダモを使つての植物実験. 植物と自然 6(10): 23—27.
- <1973>
- 新山恒雄. 休耕田の雑草群落とその遷移. 採と飼 35: 67—72.
- 大滝末男. ムジナモを殖やそう. 植物と自然 7(2): 11—16.
- 尾崎富衛. 福島潟の植物(予報). 福島潟・瓢湖環境総合調査報告書(第一年度)(新潟県豊栄市・水原町): 6—20.
- . 瓢湖の植物調査(予報). 同上: 38—46.
- 門田定美・白石芳一・井元雅敏. 湯ノ湖産沈水植物の分布, 成長および現存量について. 調和型湖沼の生物群集の生産力に関する研究—湯ノ湖の生物群集の生産力に関する研究—昭和47年度報告: 10—16.
- 河合信和. 養殖マリモに専門家は当惑. 科学朝日 33(5): 68(グラビア, 12—15).
- 川嶋昭二. マリモは必ずしも丸くない. 科学朝日 33(7): 57—60.

- 酒井英市. ホテイアオイによる豚ふん尿汚水の浄化処理. 畜産の研究 27: 533 - 538.
- 末広喜代一. 高松市瀧元新浜塩田に見られた塩生植物群落の成帯構造 1. 土壌条件に対する植物の現存量のちがい. 香川大教育学部研究報告 No.225: 1-7.
- 鈴木朝夫. 印旛沼周辺のオニバスについて. 千葉生物誌 22: 35-36.
- 鈴木昌友. 水戸丹下湿原の植物. 植物と自然 7(9): 20-22.
- 長井真隆. 黒部市における水生植物社会の消長と環境. 黒部市環境課 pp.31.
- 中沢信午. ツェラー湖をたずねて. 遺伝 27(4): 68-72.
- . ツェラー湖のマリモについて. 藻類 21: 76-77.
- . 実験室でマリモの球を作る. 科学朝日 33(7): 60-63.
- . 安部 守. 藻類の人工球化. 藻類 21: 53-56.
- 浜島繁隆. 木曾川下流域の水生植物の生態学的研究. 北陸の植物 21: 14-18.
- 藤井茂美・三好教夫. 児島湖の大型水生植物の生産力と分解とに関する一知見. JIBP-PF 児島湖群集生産研究経過報告 (JPF 児島湖研究グループ) No.6: 35-39.
- 三好保徳. 木の実・草の実. 63)ミツバアケビ・ヒシ. 植物と自然 7(1): 7.
- 百瀬忠征. オオカナダモの形態. 東書高校通信生物 121: 7-8.
- <1974>
- 青森県立三沢高校生物部植物班. 小川原湖沼群におけるフジマリモの生態に関する研究. 科学の実験 (学生科学選集 9) 25(10): 187-192.
- 池田 一. キシュウスズメノヒエ (*Paspalum distichum* L.) に生態型の変異について. 宮大農報 21: 309-313.
- 今村駿一郎. カワゴケソウ科の植物. 遺伝 28(8): 55-60.
- 薄葉 満. いわき市及びその周辺のタヌキモ (予報). 福島生物 No.17: 18-22.
- 梅沢 稔. ムジナモ. 遺伝 28(7): 94-97.
- 大滝末男. 日本におけるオニバスの分布. 植研 49: 8-12.
- . ウキクサの仲間. 遺伝 28(8): 50-54.
- . <水草の見分け方> スイレンとキンギョモのなかま. 植物と自然 8(7): 14-19.
- . <水草の見分け方> ウキクサ・水生シダ・シヤジクモのなかま. 植物と自然 8(8): 18-20.
- 尾崎富衛. 福島潟の植物調査 (続報). 福島潟・瓢湖環境総合調査報告書 (第二年度) (新潟県豊栄市・水原町): 1-9.
- . 瓢湖の植物調査 (続報). 同上: 21-23.
- 金堀鉄夫. 車軸藻類における核型の研究. 生物科学 26: 128-136.
- 川松重信. コウホネの萼とウキクサのフロンドにおけるプラスチドの電子顕微鏡的観察. 愛知教育大学研究報告<2> 23: 59-71.
- 小河久朗. 海草の生殖と発芽. 遺伝 28(8): 12-16.
- 小宮定志. 水生の食虫植物. 遺伝 28(8): 37-42.
- 佐橋紀男・幾瀬マサ. ガマの花粉4集粒における数種の移行行列について. 植研 49: 54-62.
- 末広喜代一. 高松市瀧元新浜塩田にみられた塩生植物群落の成帯構造 2. 群落構成種の種間関係の検討. 香川大教育学部研究報告<2> No.235: 1-14.
- 立花吉茂. 水草の生態. 遺伝 28(8): 17-24.
- 達山和紀・江川 宏・山本広基・三木和博・新田 勇・永井 隆. ウキクサ科植物による水質検定 1-1 松江市内河川の水質について. 山陰文化研究紀要 14: 87-98.
- 田村道夫. キンボウゲ目の水草. 遺伝 28(8): 25-30.
- 豊田清修. 行田出土のハスの実の自然発芽と開花. 植研 49: 206-213.
- . 行田出土のハスについて. 植物と自然 8(10): 18-20.
- 中西克爾. オオカナダモの細胞学的研究 第7報 オオカナダモのトゲ細胞の発達・分布・形態異常について. 桐朋学報 24: 71-77.
- 中沢信午. ツェラー湖におけるマリモ球絶滅の時とその原因. 藻類 22: 101-103.
- 西田 誠. 水生シダ. 遺伝 28(8): 31-36.
- 野沢治治. 海の水草. 遺伝 28(8): 43-49.

[1967]

Nakashima, H. Change in sensitivity to dark break and its relation to floral induction in long-day duckweed, Lemna gibba G3. *Plant Cell Physiol.* 8: 637-645.

Shimizu, T. An observation on Scirpus iseensis, sp. nov. *Journ. Jap. Bot.* 42: 175-181.

[1968]

Iwasaki, N. & K. Imahori. Die Veränderung des DNS-Gehaltes beim Spitzenwachstum von Chara und Nitella. *Sci. Rep. Coll. Gen. Educ. Osaka Univ.* 17(1): 33-40.

Kamuro, S. Phytosociological studies on the littoral vegetations of the artificial ponds in Tokai District, central Japan. *Mem. Fac. Educ., Fukui Univ.* Ser. II, Nat. Sci. (18):47-91, pls. I-X.

Kishimoto, U. Electromotive force of Nitella membrane during excitation. *Plant Cell Physiol.* 9: 539-551.

Kuraishi, S., K. Kasamo & T. Hayashi. Effect of auxin on the incorporation of proline into the naked protoplasm of Chara globularis. *Plant Cell Physiol.* 9: 401-404.

Maeda, M. & K. Imahori. Light effects on the morphogenesis of Charophytes (2). *Sci. Rep. Coll. Gen. Educ. Osaka Univ.* 17(1): 23-31.

Nakashima, H. On the rhythm of sensitivity to light interruption in a long-day duckweed, Lemna gibba G3. *Plant Cell Physiol.* 9: 247-257.

Nishizaki, Y. Light-induced changes of bioelectric potential in Chara. *Plant Cell Physiol.* 9: 377-387.

Tazawa, M. & U. Kishimoto. Cessation of cytoplasmic streaming of Chara internodes during action potential. *Plant Cell Physiol.* 9: 361-368.

[1969]

Miyata, H. & Y. Yamamoto. Rhythms in respiratory metabolism of Lemna gibba G3 under continuous illumination. *Plant Cell Physiol.* 10: 875-889.

Nakashima, H. Effect of inhibitors of nucleic acid and protein synthesis on the reappearance of "light interrup-

tion rhythm" in a long-day duckweed, Lemna gibba G3. *Plant Cell Physiol.* 10: 259-270.

Oda, Y. The action of skelton photoperiods on flowering in Lemna perpusilla. *Plant Cell Physiol.* 10: 399-409.

Oota, Y. Frond and flower production in Lemna gibba G3 in presence of respiratory inhibitors. *Plant Cell Physiol.* 10: 621-633.

Saitoh, M. & S. Ishikawa. Ecological studies in Byobu-san area V. Moor vegetation in Byobu-san area. *Bull. Fac. Educ. Hirosaki Univ.* 21: 97-104.

—————, S. Hasegawa & T. Kon. Ecological studies in Byobu-san area III. Vegetation of the Kakure-numa moor. *Jour. Aomori-ken Biol. Soc.* 11: 8-11.

[1970]

Ikusima, I. Ecological studies on the productivity of aquatic plant communities IV. Light condition and community photosynthetic production. *Bot. Mag. Tokyo* 83: 330-341.

Miyata, H. Endogenous light-on rhythm in respiration of a long-day duckweed, Lemna gibba. *Plant Cell Physiol.* 11: 293-301.

Nakashima, H. & H. Mori. DNA synthesis as related to the appearance of "light interruption rhythm" in a long-day duckweed, Lemna gibba G3. *Plant Cell Physiol.* 11: 805-816.

Oota, Y. Periodical growth response of Lemna gibba G3 to light-break. *Plant Cell Physiol.* 11: 417-425.

Saitoh, M., K. Narita & S. Ishikawa. Photosynthetic nature of some aquatic plants in relation to temperature. *Bot. Mag. Tokyo* 83: 10-12.

[1971]

Kondo, K. Chromosome number of Utricularia resupinata B.D. Greene (Lenticulariaceae). *Journ. Jap. Bot.* 46: 26-29.

Maeda, M. & K. Imahori. Light effects on the morphogenesis of Charophytes (3). *Sci. Rep. Coll. Gen. Educ. Osaka Univ.* 20(1): 1-4.

Miyata, H. Endogenous light-on rhythm in respiration of a long-day duckweed,

- Lemna gibba G3 II. On basic and rhythmic components of the rhythm. *Plant Cell Physiol.* 12: 517-524.
- . Ditto III. Relation to frond production. *Plant Cell Physiol.* 12: 969-977.
- Oota, Y. Disappearance of rhythmicity in growth response to dark- and light-breaks in Lemna gibba G3 due to iron deficiency. *Plant Cell Physiol.* 12: 255-266.
- . & T. Tsudzuki. Resemblance of growth substances to metal chelators with respect to their actions on duckweed growth. *Plant Cell Physiol.* 12: 619-631.
- Takeda, J., H. Morioka., H. Kinoshita & M. Senda. Permeability of the Nitella internodal cell to organic substances as measured by the double chamber method. *Plant Cell Physiol.* 12: 949-960.
- Umemoto, T. Effect of chlorogenic acid on flower production in long-day duckweed, Lemna gibba G3. *Plant Cell Physiol.* 12: 165-169.
- [1972]
- Esashi, Y., T. Shibasaki & K. Saito. Flowering responses of Lemna perpusilla and L. gibba in relation to nitrate concentration in the culture medium. *Plant Cell Physiol.* 13: 623-631.
- Ishiguri, Y. & Y. Oda. The relationship between red and far-red light on flowering of the long-day plant, Lemna gibba. *Plant Cell Physiol.* 13: 131-138.
- Oota, Y. A possible mechanism for sugar inhibition of duckweed flowering. *Plant Cell Physiol.* 13: 195-199.
- . The response of Lemna gibba G3 to a single long day in the presence of EDTA. *Plant Cell Physiol.* 13: 575-580.
- Yamashita, T. Eigenartige Wurzelanlage des Embryos bei Ruppia maritima L. *Beitr. Biol. Pflanzen* 48: 157-170.
- [1973]
- Komiya, S. New subdivision of the Lenticulariaceae. *Journ. Jap. Bot.* 48: 147-153.
- Kumaki, Y. & Minami, Y. Seed germination of "Onibusu" Euryale ferox Salisb. 2. *Bull. Fac. Educ. Kanazawa Univ. Nat. Sci.* 22: 71-78.
- Nakashima, H. Reversal of the dark inhibition of flowering in a long-day duckweed, Lemna gibba G3, by thymidine and related nucleosides. *Plant Cell Physiol.* 14: 893-899.
- . Effect of light on the metabolism of thymidine in the long-day duckweed, Lemna gibba G3. *Plant Cell Physiol.* 14: 901-910.
- (5頁よりつづく)
- 料として利用でき、同量 (1 ha) のホテイアオイから 1,311 ~ 2,014 kg の N、375 ~ 576 kg の P、1,553 ~ 2,386 kg の K などが生産できる。
- ホテイアオイを最も効率よく利用するためには、次のような要素を考えて計画をたてる必要がある。
- 1) 場所。温暖で湿潤な気候の所が最適。
  - 2) 排水の特質。ホテイアオイは、下水、農業排水、畜産排水、産業排水あるいは富栄養湖中で栽培できるが、栄養塩組成をホテイアオイの成長に最適なように保つべきである。そのために制限要因となっている栄養塩をつきとめ、場合によっては水質悪化を招来しない方法でその栄養塩を加えることも考えてよい。高濃度の有害物質を含んだ排水の場合は、収穫後のホテイアオイの利用が限定される。
  - 3) システムのサイズと排水の負荷量。処理すべき排水量、滞留日数などを考えて面積と水深を決める。
  - 4) スラッジの堆積とその処分。
  - 5) 処理後の水質。ホテイアオイは N は効率よく除去するが、P の除去能は劣る。したがって P レベルを下げるためには別のステップが必要かもしれない。その場合、ホテイアオイ栽培系で処理済の排水を、例えばアカウキクサ属 (空中窒素を固定するラン藻と共生しているので N の除去された水でもよく育つ) を培養している池に流して P の除去をはかるのも一方法である。
  - 6) 経済効率。ホテイアオイを使った排水処理とバイオマス生産が経済的に見合うか否かについては情報が乏しい。システムの計画に先立ち、コストの分析を行うべきだろう。(角野康郎)